周南市文化芸術振興懇話会（第１回）議事録

１.日時	令和８年９月３０日（水）１４時００分～１６時００分
２.場所	周南市役所２階　共用会議室Ｈ
３.出席者	委員　：大下委員、大橋委員、門井委員、木村委員、 久保委員、渡邉委員、高菅委員、西﨑委員、 松本委員、山本委員、 事務局：文化スポーツ観光部　川上次長 文化振興課　山本課長補佐、清水係長、半田係長 傍聴者：なし
４.議事	⑴ 周南市文化芸術振興懇話会について ⑵ 周南市文化芸術振興プランの「令和７年度の取組」について ⑶ 「令和７年度の取組」について（意見交換） ⑷ 文化芸術を通じた多世代交流拠点整備事業について

１.開会

２.あいさつ

３.委員紹介・事務局職員紹介

４.会長の選任

５.議事

（1）　周南市文化芸術振興懇話会について

（事務局）

別添資料１「周南市文化芸術振興懇話会について」を基に、本懇話会について説明。

（会長）

事務局からの説明に対して、何か質問があればお願いする。

（委員）

（質問なし）

(2)　周南市文化芸術振興プランの「令和７年度の取組」について

（事務局）

別添資料３「令和７年度周南市文化芸術振興プランの取組進捗状況及び意見」を基に説明。

（会長）

事務局からの説明に対して、何か質問があればお願いする。

（委員）

（質問なし）

(3)「令和７年度の取組」について（意見交換）

（会長）

資料３の意見に基づき意見交換を行っていきたい。まずは基本方針の１に関連したものから話を伺いたいが、いかがか。

（委員）

文化会館が工事で閉鎖している間、様々な芸術関係が他で開催され、戻ってこないのではないかと心配するが、その点はどのように考えているか。

（会長）

事務局から説明をお願いする。

（事務局）

まず、文化振興財団が様々なプロモーターと一緒に事業を検討している。２年の休館期間、そのプロモーターとの縁が切れてしまわないよう、文化振興財団には関係性の維持をお願いしたい。あわせて、文化会館の規模でなくとも、市民の方々に文化芸術に触れる機会を提供し続ける必要があることから、市内の他施設を活用した事業が実施できないか協議を進めているところ。また、コンサートの企画は、１年から２年前には協議を進めていくため、再開後に向けた協議も進んでいるとは聞いている。

（会長）

市民の方々に提供される芸術について話があった。美術博物館での取り組み等について、何か意見はあるか。

（委員）

今年度は「魯山人の宇宙」や「ねずみくんのチョッキ展」を開催した。また、常設展として周南市ゆかりのものを展示している。体験という観点では、ワークショップなどが考えられる。現在、部活動の地域展開により、かるちゃあサポートセンターが文化会館の中に存在するが、元々、文化会館としては移動文化教室等の地域に出向く事業を実施していた。しかし、教室や体験会などは人手が必要なため、持続性を考慮すると大学生と連携した実施も検討する必要がある。また、イベントへの参加やボランティアだけでなく、企画や運営を体験していただくのも面白い。

本年１１月から、渡辺おさむ氏の展覧会を開催するが、５施設連携事業として８月に駅前図書館でのワークショップを開催し、今後も徳山動物園でのワークショップなどが予定されている。美術博物館だけでは実施回数に限界があるが、他施設と連携することで市民の方々に多くの機会を提供できると改めて感じている。

（会長）

ぜひ大学のリソースも活用していただきたい。学校の話が出たが、学校の文化芸術については、いかがか。

（委員）

部活動の地域展開について、スポーツについては、クラブチームが多く立ち上がっており、今後も増えていく印象である。多少の地域差はあるが、自転車で学校に登校し、学校から地域クラブまで、直接自転車に乗って向かうなど、移動手段の確保について改善されたと感じる。しかし、文化については、クラブの立ち上がりが少ない印象。吹奏楽は市内３ヶ所で立ち上がり、子どもたちを受け入れているが、それ以外の分野については、まだこれからという状況。そこで、学校の施設をできるだけ開放できないか、現在、調整が進んでいるところ。

小中学校が美術博物館等をどれだけ利用しているか、情報があれば教えていただきたい。

（委員）

データ的なものはこの場でお示しできないが、美術博物館は去年で開館３０周年を迎えた。開館した当初は、徒歩圏内である住吉中学校、岐陽中学校に利用いただいており、同じく徳山小学校、岐山小学校にも利用いただいていた。しかし、現在はカリキュラムの都合なのか、中学校については、こちらが受け入れ可能であっても断られることがある。中学生は、ご家族で来館されることはあると思うが、授業で利用されることが難しくなってきていると感じている。また、小学校については、今年度開催した「ねずみくんのチョッキ展」など、馴染みのあるものについては訪れていただけている印象だが、時期とテーマによる影響が大きい。美術博物館は美術、写真、歴史と３部門あり、昔は４年生等が郷土学習として来館し、歴史の展示室を観覧していたが、それも減ってきている。反対に、低学年は美術博物館と徳山動物園をセットにして遠足をしており、学校によっては定着している印象を受けている。また、学校の置かれている状況、時代の変化も大きいと感じており、美術博物館を鑑賞の場ではなく、校区内にある１つの施設として、その役割を学びに来るという目的での利用が増えている。

（会長）

様々な実情がわかった。福祉関係の話も伺いたい。

（委員）

障害者アートに対して興味を持っていただいているが、就労継続支援の事業所としては、アート事業部の工賃を払う目的もあることから、観覧だけではなく、売り上げも欲しいというのが本音である。

現在、公募展をしており、山口県の障害者の方の作品を募集している。毎年２００点以上集まるが、その中から、審査員による審査を経て、１２人の方が毎年カレンダーを作成している。このカレンダーの目的の一つも売り上げであり、お金を伴う事業であることから難しさを感じている。また、職員不足も課題としてあり、ハローワークで募集しても厳しい。そのような中、どのようにアートを広げていくか。「こだまアートストリート」は大変良かったが、これを複数事業で実施しようとすると厳しい。また、その場での作品販売ができな

いことから、施設への来園を案内したが、一般の方の来園は少ないのが現状である。

（会長）

伝統芸能における、市民や子どもたちへの普及について話を伺いたいが、いかがか。

（委員）

２つほど話をさせていただく。１つ目は、小学校４年生１８０人に学び・交流プラザまで来てもらい、約１時間、市の文化財担当と私が伝統芸能について説明する会を３回実施した。４年生は、興味を持って話を聞いてくれ、非常にやりがいのある活動だったため、地域の方にも広げていきたいと思った。もしくは、実施に向けたハードルを下げるため、こちらから授業に参加していければ、可能性が広がるのではないかと感じた。児童たちが目を輝かせていたため、今後も可能な活動であれば実施していきたい。

２つ目として、先日開催した本山神事について、富田中学校が開校８０周年ということで、地域課題解決事業に取り組まれた。地域の課題解決を考える３年生たちに、本山神事として「人手不足」、「後継者不足」というテーマを提出し、２ヶ月間、クラスの中に入って一緒に活動した。当初、生徒たちはお祭りについて食べ物くらいの印象しかなかったが、活動終了時には、生徒の口からは「本山神事」、「お宮」、「歴史をつなげていく」など、様々な単語が飛び交っていた。これには、参加して本当によかったと感じた。やはり、受け身の姿勢ではなく、こちらから飛び込むというのが大切ではないかと思う。こちらから行動することで、学校の先生や様々な方と話す機会が増え、関係性が広がっていくと考える。伝統芸能保存協会には２０団体以上の登録があるが、非常に厳しい状況のところもあれば、うまくいっているところもある。今年が勝負だという話も多く、５年後や１０年後なんて、とても読めない。そういうところにも、手を差し伸べていただければありがたい。とある学校の校長先生と話をした際、児童や生徒たちが地域の方と接点を持つ目的は、コミュニケーションをとるためとのことだった。私たちが貢献できることとして、コミュニケーションが取れる文化がいいのではないか。

（会長）

現場からの貴重な意見だと思う。

次に「２　文化財の利用活用」について、回天の話を伺いたい。

（委員）

回天太鼓の保存会があり、事務局をしている。市のイベントや他のイベントで太鼓を披露することがあるが、お祭りでの最後の締めとして出演依頼をよく受ける。誰が、どこで、どのように活動しているかは多くの方がご存知ないと思うが、有志が集まってずっと練習している。そのような中、回天太鼓と大津島の回天に関する記事等があまり上手にリンクされていないと感じている。

先日、関西方面の大学生たちが地域留学で来られ、大津島をはじめ、島の魅力をアップする観光資源開発について勉強されていた。そのような中、ここに行けば回天だけでなく、回天の太鼓も見られる、また、歴史も学べる、文化にも触れられるなど、すべてを一体できるような取り組みがあれば良いと感じた。碑や像に何か説明文を付けることも、中学生や大学生が自分たちで開催すれば、先ほどの本山神事みたいに、興味がわいてくると思う。若い世代のときから関わっていく機会を設けていくと、少しずつ変化が起こるのではないか。

（会長）

観光という観点からの話を聞きたいが、いかがか。

（委員）

皆さんが言われるとおり、小さい頃から関わっていくことで、自分ごとになっていくと思っている。自身も中学校のときの職場体験で美術博物館に行き、子どもながらに思い出深く、記憶に残っている。やはり、小さい頃から何か自分事として地域のことに関わっていけたらと思う。

（会長）

文化観光や歴史芸術など、観光の実情としてはどうか。観光活用はまだあまり進んでいないというところか。ここがうまく連携できると更なる価値の向上があると思われる。

一方、身近な文化の話も出たが、その点についていかがか。

（委員）

文化協会の実態は高齢化がかなり進んでおり、８０歳前後が中心。次世代はなかなか育ってきていない印象。その要因として、働き方が変わってきたこと、企業支援の変化があると思う。昔は、企業による文化祭などがあったが、現在は個人的な活動が中心になっており、その方が活動できなくなると止まってしまうなど、次世代に繋がれていない。そこには文化活動のあり方にも問題がある。やはり、魅力ある活動をして若い方を巻き込んでいくような雰囲気を作る必要がある。自分たちが好きなことだけを好きなようにやっていくのでは、現代社会での継承は厳しい。

中学校部活動の地域クラブ移行についても、教える側・指導者側の問題もあり、スポーツの方がスポーツ協会或いはその他の団体による活動が活発であり、文化団体は非常に高齢化が進んでいる。そのような中、現状を認識した上でどのように取り組んでいくか。連携というのは非常に大きなテーマであり、華道や茶道、書道など様々なものがある中、陶芸とお花がコラボレーションする、書とお花がコラボレーションすることで魅力をさらに増やしていくことも考えられる。そのためには、異分野の交流として、お互いを知ることが大切である。また、周南市にはまだパーティーをする会場がある。近年、パーティーを開催できるところは限られているが、そのような場は出会いの場であり、非常に意味がある。一堂に会して、お互いを知り合う。こうして、次の新しい事業展開が生まれてくる。普段のそのような繋がりをいかに作っていくか。皆さんが言われたように、体験することで初めて、人は自分事として受けとめるため、まずは関心がないと右から左に流れてしまい全く伝わっていかない。また、新聞離れが進んでいるため、情報も多く伝わっていかない。社会の様々な状況での難しさはあるが、だからこそ意識的にこのような会合を利用しながら、それぞれの団体が他の団体と、連携する。1歩踏み出して、日常の中でいろんな取り組みをしていく。それらがすべて繋がっていくのではないかと感じている。

（会長）

福祉の現場の話を伺いたいが、いかがか。

（委員）

先ほど話もあったとおり、私たちは福祉関係の仕事であるため、物を販売することなどは苦手であり、宣伝も上手ではない。そういった分野が得意な方がいれば、仲間になっていただくことで、いい作品が多くあることを広く知ってもらい、障害者の方の自立に繋がっていくと有難い。

また、私達は高校生のボランティアサマースクールという、高校生の夏休み期間中を対象に、様々なボランティアのプログラムを用意して、体験してもらっている。今年は市の文化財担当が開催した勾玉づくりに、高校生何名かにお願いして、お手伝いをしてもらった。高校生はこちらが準備したプログラムの中から勾玉づくりを選んでいたため、何かしら興味を持つきっかけがあったのではと思っている。福祉だけではなく、様々な担い手不足の問題があるが、皆さんからも意見が出ているように、子どもの頃からの体験が後々の文化活動に繋がっていくと思っている。自身としても、小さな頃に絵を見たり、楽器を経験したため、関心があって今もコンサートに行く。また、先日の「ねずみくんのチョッキ展」も見させていただいた。様々なイベントに足を運び、そういった方々の支援をしたいという思いはあるため、お金を払って、しっかり見させていただく。自分の中では、微力ながら文化と、そういったものの振興のお手伝いに繋がっているのではないかと思っている。

（会長）

芸術からどのようにお金を生み出すか、或いは企業からの芸術文化、文化財などへの支援の話などについて、いかがか。

（委員）

徳山夏祭りの開催などは企業の皆さんに寄付をお願いしている。コロナの影響もあり、自分たちの事業で精一杯のところ寄付をいただくため、我々も切り詰めて実施している。多くの方に喜んでいただくための事業ではあるが、企業の皆さんも本業があるため、なかなか難しいところもある。簡単な話ではないと思われる。

（委員）

本山神事も大部分を寄付で賄っている。我々保存会の人間が、個人と企業に

寄付のお願いをする。なかなか大変な作業であるため、それを理由に保存会に入りたくないということも聞く。寄付を募っていることの告知等を行うことができ、広く周知出来たら有難いと思っている。

（委員）

本日、伝えたいと思っていたことが２つある。

１つ目は、先ほども話があった文化芸術団体の高齢化による担い手づくりについて、文化団体が積極的に中学生や子どもたちのところに入っていくしかないと考えている。

２つ目は、回天について、昨年度の文化振興プランの策定会議において多くの意見が出た。大津島の充実はもちろんだが、大津島までの経路である徳山駅周辺において、回天に関するものが少ないという意見があった。以前、観光コンベンション協会で、平和の島プロジェクトを実施した際、ＪＲ徳山駅に回天のレプリカを設置できなかったが、現在は周南市が徳山ポートビルに回天のレプリカを設置している。そのレプリカは、２００６年の映画「出口のない海」で使われたレプリカで、実は回天記念館の前にあるレプリカよりも精巧に作られているが、説明板が１つあるだけ。説明板を設置するだけで、この世に存在するレプリカの中で一番正確だと伝えることができる。本土にもレプリカが存在することをもっと生かせるのではないか。周辺に回天を紹介するパネルを設置するなど、何か整備する手だてはないのかと思っている。

（会長）

観光の観点で回天を活用したコンテンツは何かあるか。

（委員）

観光協会がボランティアガイドの事務局を担っており、現在、市内４地域に分けて活動している。もちろん、大津島の班も活動しているが、これまでに皆さんからも話があったように、ガイドとしてもやはり高齢化による担い手不足が喫緊の課題になっている。また、大津島には、市外県外から学びに来る学校や団体が多いため、観光地として活用されており、来られている方が多いなという印象はある。

（会長）

コンテンツとして、文化財、歴史として回天は重要と思うが、美術博物館としての何か整備はあるか。

（委員）

周南市の歴史について、分割されている印象がある。美術博物館は徳山市の時代に完成した。２階に常設展示があるが、「徳山の歴史」というタイトルで今も展示している。合併した際、その後の方針について１度協議があったと認識しているが、徳山は美術博物館、新南陽は民俗資料館、鹿野は図書館に民俗資料展示室、熊毛も図書館に歴史展示室が整備されていることから、それぞれがそれぞれの形を取っていると理解している。

（事務局）

回天記念館については、回天顕彰会の方がご遺族を回られ、資料を集められ、あわせて、回天記念館の建設賛助会という形の組織を作られ、建物も作られた上で徳山市に寄贈されたという経緯がある。よって、昭和４３年、４４年の時点で、建物、そして展示品も含めて、回天の関係者の方から徳山市にいただいた。美術博物館ができるはるか前からそのような経緯があり、今の形になっていると思われる。

（会長）

うまく連携ができると良い。

様々なところに散らばっているのは、中学校でもそうかもしれないが、文化活動でも何か地域ごとの差が生まれたりするか。地域間において格差的なものであったり、或いは独自の取り組みだったりなど、何か思い当たるところはないか。地域ごとの連携についても、徳山とそれ以外の地域で、アクセスの差も出てきてしまうのでは。

（委員）

全体的なことだが、文化資源の継承や活用について、地域や時代によって限定されるのではないかということが、実感としてある。たとえば、周南の歴史を知りたいとき、「あそこに行けば知れる」、歴史や民俗芸能は、「ここで見たらわかる」など統括していれば、興味を持ってもらえるのではないか。先ほど

から意見が出ているが、関心がなければ見ることもないが、何か１つでも見れば、ここにも実はあったなど、次に繋がっていくのではないだろうか。その中で、５施設連携事業を実施してみたことで、図書館には行くが美術館には行かない方が、美術館に行くきっかけを得るなど、今まで利用しなかった方や、今まで情報を得ようと思わなかった方たちが、新たな興味を持つ仕組みのようなものが存在すると、いいのではないかと思う。

情報が多い社会であり、すぐに埋もれてしまうため、周南市の歴史・文化を知りたい時、的確に情報に到達できる仕組みがあればと思う。また、様々な取り組みがされているにもかかわらず、それが届いてない現状があると強く感じる。関心のない方にも情報が届く仕組みなど、多くの方に情報を届けられる方法があればと思う。

（会長）

文化財マップとホームページの整備もしているのか。

（事務局）

文化財マップの中で、文化財だけでなく、歴史に関するものや、歴史に関係する施設の紹介を冊子に載せている。また、ホームページにおいても、各施設をたどっていく必要があるとは考えており、少しずつではあるが取り組んでいる。令和７年に文化振興芸術プランを作った際の前提として、文化財保護の業務を教育委員会から市長部局に移し、文化振興課が作られたという経緯がある。そして、文化芸術・文化財を１つのセクションとした上でこのプランを策定し、それぞれの連携を深めていく上で多くの方に知っていただき、円滑に流れていければと考えている。

（事務局）

昨年度、作成した「まどさんを感じて　ぶらりまち歩き」マップについて、委員からも意見があったように、受け取る方のキャッチ力もあると思うが、このマップを美術博物館に置いていた際、住吉中学校の先生から「授業で使いたい」と相談を受けた。現在はデジタルの時代ではあるが、目に触れるところに積極的にアプローチし、多くの方にキャッチしていただくことが大事であると感じた。

（4）　文化芸術を通じた多世代交流拠点整備事業について

（会長）

文化芸術を通じた多世代交流拠点整備事業について、事務局からお話を伺いたい。

（事務局）

資料５を基に、地域未来交付金について説明。

（会長）

多世代交流拠点整備事業について説明があったが、何か質問はあるか。

（委員）

文化会館には、過去にレストランがあったが、現在はなくなっている。文化会館の利用においてマイナスな部分ではないかと思うが、新しく何かを導入する予定か。飲食店や、動物園の可愛いマスコットや観光コンベンション協会が扱っているような市のお土産物を扱うショップを入れる等、様々な考え方があるかと思うが、どのように考えているのか。

（事務局）

レストランについては、元々お店を出していた方が事業を畳まれたことで、現在は空いている。その後、新型コロナウイルス感染症による社会的な情勢に加え、文化会館の改修も予定されていることから、現在の状態となっている。どういった店を出すかという問題はあるが、飲食は必要だと考えている。この休館期間中において、検討していきたい。

（会長）

その他に、何か意見はあるか。

（委員）

以前の大幅改修時、国の補助金をうまく活用して、ほとんど国のお金で改修したと認識している。この度も、耐震などでそういう制度があるのか。

（事務局）

吊り天井等の耐震改修に関する部分は起債である。魅力向上という部分は国の交付金であり、組み合わせて実施していこうと考えている。

（委員）

現在、県内の文化会館や市民会館、市民館などは完成から４０年が経過しているが、自治体の財源の事情もあり、ほとんど改修できないと認識している。そのような状況の中、周南市は文化会館に投資して、リニューアルしていこうとしている。これから先、１０年・２０年が経過した際、他地区と圧倒的な差が出てくると思っている。既存の施設対応に手をつけられない、新しいものを作るだけのゆとりがない自治体もある中、周南市は設置する側の責任を果たしている。市民として、或いは利用するものとしても非常に力強い。様々なインフラが整備されていく中で、どのように活用していくか。活動の拠点が整備されていくことで、活動は活発になると思われる。そのような中、お互いの連携がキーワードになるため、経済と文化も大いに融合しなければならない。お金が必要だからと企業にお願いするのではなく、お互いの信頼関係が生まれているからこそのことである。お互いに頑張っていこうという良好な関係が、お互いを支え合い、助け合ってこのまちを豊かにしていく。そのような関係づくりをしていくことで、周南市は県内でも際立った存在になると感じている。

もう１点。皆さん情報を必要としているので、自分のところの情報だけ出す施設には魅力はない。ある場所へ行けば様々な情報が手に入るように。多くの方が自らアンテナを持ち、この山口県全体を支えていくことで、また周南市が中心になっていけるのではないかと思う。

（会長）

連携の大切さについての話もたくさん出てきたが、大学をはじめ学生や教員も全部活用していただきたい。また、ここで会った方々が発展し、それがまちの文化、芸術、歴史文化等に資すればと思っている。

議事は以上となる。

（事務局）

本日は令和７年度の取り組みについてご説明し、ご意見をいただいた。本日の話を踏まえ、令和８年度の取り組みも半分経過したところではあるが、今後も、少しずつではあるが文化振興の取り組みを実現していきたい。

６.閉会